

宇宙開発の現状報告

(平成 20 年 2 月 27 日(水) ~ 平成 20 年 3 月 4 日(火))

平成 20 年 3 月 5 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する海外の動向

- インド宇宙研究機関、宇宙科学ミッション案を発表 【印】
2月27日(水)インド宇宙研究機関(ISRO)の宇宙科学諮問委員会(Advisory Committee for Space)は、2020年までの宇宙科学ミッション案を発表した。惑星探査、天文・天体物理学、宇宙気象、地球気象・気候科学の4分野による小委員会により、将来の科学ミッション候補を特定したもの。概要は以下のとおり。
 - 月探査機「Chandrayan-2」:2012年までの打上げ。月面着陸用探査ローバ及びロボティクスによる月探査機ミッション。月サンプルのその場分析
 - 火星探査機:2009年~2015年。太陽風の影響、火星表面の磁場研究、水の探査
 - 小惑星探査機:2009年~2017年。地球近傍小惑星(NEA)を対象
 - 太陽コロナグラフ(望遠鏡):2012年まで。可視光及び赤外線観測
 - 2機の小型科学衛星ミッション:2008年~2010年。地球周辺

の電磁場の観測

- 硬 X 線分光器「RT-2」:2008年。ロシアの太陽観測衛星「コロナス・フoton(Coronas-Foton)」に搭載。インドのGSLVロケットによる打上げ
- イスラエルの紫外線望遠鏡「TAUVEX」:2008年。インドの技術試験衛星「GSAT-4」に搭載。GSLVロケットによる打上げ
- Space Science Instrumentation Facility(SSIF):科学ミッション向け機器の設計及び組立てを行うための施設の設置

- インドの2008年度宇宙予算を公表 【印】
2月29日(金)インド政府は2008年度(2008年4月~2009年3月)の政府予算を公表した。インド宇宙省(DOS)に割り当てられた予算は407億4000万ルピー(約10億1500万ドル)。主な予算項目は以下の通り。
 - 輸送系開発:158億8480万ルピー(約4億ドル)
GSLV-MK ロケット開発、ロケット開発試験センタ整備、有人宇宙往還機開発
 - 衛星技術開発:72億1770万ルピー(約1億8000万ドル)
衛星航法システム開発、先端通信衛星開発、地球観測衛星開発
 - 打上、管制施設:30億1270万ルピー(約7500万ドル)